

「弟子の覚悟」



宗教部長
佐々木 哲夫

寝食を共にして先生から学ぶ、それがイエス・キリストの時代の教育でした。先生が旅をするならば、弟子もまた先生とともに旅をしたのです。三人の弟子候補者とイエス・キリストの対話です。

一行が道を進んで行くと、イエスに對して、「あなたがおいでになる所なら、どこへでも従つて参ります」と言う人がいた。イエスは言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巢がある。だが、人の子には枕する所もない。」そして別の人に、「わたしに従いなさい」と言われたが、その人は、「主よ、まず、父を葬りに行かせてください」と言った。イエスは言われた。「死ん

でいる者たちに、自分たちの死者を葬らせなさい。あなたは行つて、神の国を言い広めなさい。」また、別の人も言った。「主よ、あなたに従います。しかし、まず家族にいとまごいに行かせてください。」イエスはその人に、「鋤に手をかけてから後ろを顧みる者は、神の国にふさわしくないと」言われた。

(ルカによる福音書九章五七〜六二節)

最初の候補者は、自分で弟子になりたいと申し出ました。彼は積極的でした。まるで、実行不可能な履修計画を立てる学生のようにです。イエス・キリストは、冷静になるようにと返答しています。

第二の候補者は、イエス・キリストの方から弟子になるように誘った人物です。しかし、彼は、「アルバイトなどやることが沢山あり勉強できない」と言う学生のようにです。学びから逃避しています。
第三の候補者は、弟子になることを承諾したのですが、すぐには取り掛かりませんでした。「環境と体調を整えてから」と準備に時を費やし、なかなか勉強に取り掛からない学生のようにです。

弟子に求められたことは、時を冷静に判断し、適切に参与することでした。それは、私たちにも適用できます。すなわち、**大学生は、再び来ることのない貴重な学びの時に置かれているということです。託されている時を正しく用いるようにと願うものです。**

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

大学礼拝

WORSHIP SERVICE

2009年
秋季特別伝道礼拝特集号



CHAPEL NEWS

第110号

「神さま、もう少しだけ」

哀歌 3章 19節～22節
コリントⅡ 4章 16節～18節



関西学院初等部 部長
磯貝 暁成

ことがあるということを知らされていきます。

突然、死（絶望）が告げられると、逆に自分の今までの生き方が厳しく問い直されることがあります。

その時、人は痛切に、「出来ることならもう一度やりなおさせてください」と祈っています。その祈りは本当の自分を生きたいという願いです。

最近、私は、周りがどのように変化しても、変わらない大切なものを自分が持っているかが重要に思えてきました。それを知らなければ、浮き草のような生き方に思えてならないのです。

人には自分の死ぬときが何時なのかは分かりません。

若い人にとっては、なおさら人生は今始まったばかりで、終わるといった感じがしません。昨日と変わらない今日があり、そしてまた今日と変わらない明日が来る、という繰り返しの日々、退屈すらしているかもしれません。

皆さんは、改めて自分の人生は一体何なのか、と感じたことはありませんか。自分は今まで何をしてきたのか、と最近考えることはありませんか。

そのような時、「あなたには、もう時間が十分残されていません。」と言われるのなら、人は焦る気持ちでオロオロしてしまいます。

やり直す自分の時間がもうないと知って初めて、人は切に本当の自分を生きたいと思いはじめます。

目の前の絶望的な事実を変えようがありません。素直に今の自分を受け入れる所から出発しなさい。そう聖書は語ります。

あなたが自分の弱さをさらけ出した時、本当のあなたらしさが見えてきたはずです。

今こそ、あなたが、弱さをも持った本当の自分を背中に背負いながら生きてきたら、それはあなたがあなたの人生を生きたときのときなのです。

「弱さの中にあつて、初めて手に入れた、生きる意味」を知った者は、たった一人になっても自分の信じた道を進んでいきます。

聖書の導きを信じなさい、神さまはあなたの苦しみをご存知です。

死にたくないと叫んだとき、命が限りなく愛おしく思われてきます。その時初めて人は、自分の命と真正面に対面するのです。

皆さんはこれまでに何度となく、もう駄目だと絶望に打ちひしがれたことがあつたと思います。

もう駄目だという絶望、それは死を思わせます。

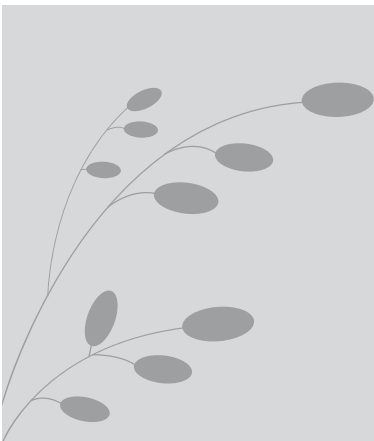
「弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態」(コリントⅡ 十二章 10節)に会えば、誰しも絶望してしまいます。しかし、その絶望の中にこそ希望を見出しなさい、と聖書は語ります。

なぜ私にだけこのようなことが、と思うほどの苦しみや悲しみを通して初めて、人は自分の力だけでは解決できない

◆磯貝 暁成 先生

一九四八(昭和二三)年生まれ。一九七五(昭和五〇)年同志社大学大学院神学研究科修士課程修了。静岡英和女学院中学校・高等学校教諭、同教頭を経て二〇〇五(平成一七)年に同副校長・常任理事。その後、関西学院初等部設置準備室副室長、同室長を経て二〇〇八(平成二〇)年関西学院初等部部长(校長)に就任し現在に至る。

磯貝先生には、十月六日(火)に泉キャンパス、七日(水)に土樋キャンパス(朝)の礼拝をご担当いただきました。



「恵みと真理に満ちたイエス」

ヨハネ 1章 14節



玉川聖学院中高等部 部長

水口 洋

二、一人ひとりを大事にする教育

一人を大事にする教育とは生徒たちの今と向き合うことです。キリストの例え話の百匹の羊を持つ羊飼いの話はそれを教えてくれます。一人が大事にされない社会というのは大勢も大切にされない社会でもあるのです。

これは「恵み」と「真理」という二つの真実が、独りの人格の中に備わっている姿です。

② 限りなく許す愛く恵み

どこまでも許す愛、受け入れる愛、敵をも愛する愛こそ、イエスキリストを通して示された神ご自身の特性であり、その神を信じる私たちの目標はここに生きることです。

③ 「正しさを貫く」く真理

ヨハネは、イエスが「真理」「正義」、神の正しさに満ちた方であることを紹介しています。「真理」は不正を断じて許さない、徹底的に正しさを追究する姿勢といえます。真理に立つことが私たちに要求されています。

④ 恵みと真理を統合する

キリストに見られる二つの特性、恵みと真理は、あの十字架の犠牲という裏づけがあつてこそ、赦し続ける「恵み」と正しさを貫く「真理」は統合されたのでしよう。

五、私たちに問われる生き方

私たちもこの恵みと真理の両方を矛盾ではなく、併せ持つことが必要であります。自らの十字架を背負う覚悟と決意を持って、目の前の子どもたちに接していくときにそれは可能になるのではないのでしょうか。

一、教育をめぐる現状

① 学校が犯人扱いされている
ここ数年、世の中全体の「教育バッシング」が展開されています。社会そのものの閉塞感を教育に押しつけているように思っています。

② 子どもたちの抱える心の闇
確かに子どもたちが抱えている現実には、深刻なものがあります。自尊心を持てない、他者との関係性を深めることが難しい現実があるようです。

③ エゴイズムとニヒリズム
子供達の心の闇は、この国が作ってきたエゴイズムとニヒリズムという二つの風潮を乗り越える価値観を提供しない限り、深まっていくのではないかと心配しています。

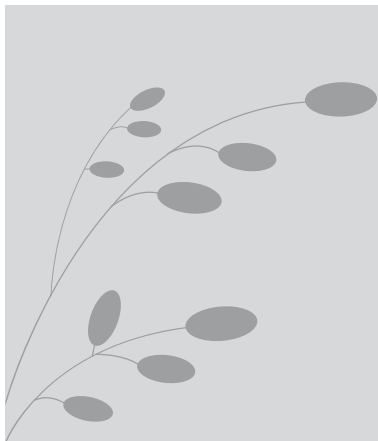
四、イエスキリストの姿を通して

① 恵みと真理に満ちた方

ヨハネ福音書の中に、教師としての理想の姿のイエス像が書かれています。そ

◆水口洋 先生

一九五二(昭和二七)年生まれ。一九七六(昭和五二)年慶応義塾大学法学部政治学科卒業後、玉川聖学院社会科学教諭。一九九一(平成三)年上智大学カウンセリング研究所上級課程修了。同研究所助手を務める。一九九五年(平成七)年玉川聖学院教頭・理事。二〇〇八(平成二〇)年に同中高等部長(校長)に就任し現在に至る。この間、日本私学教育研究所教科課程専門委員、日本カウンセリング学会認定カウンセラー。水口先生には十月七日(水)に多賀城キャンパス、土樋キャンパス(夜)の礼拝をご担当いただきました。



第35回 サマーカレッジ報告

宗教主任 出村 みや子



た。そのような経緯でこのテーマについて、クリスチャンとして仕事の現場で活躍する
 本学の職員や卒業生三名に講演をお願い
 した。学生にとっては非常に関心のある
 テーマであり、今年の参加者は自分の身
 近な問題としてプログラムに積極的に参加
 し、発言していたように思う。

サマー・カレッジのプログラムは、キリ
 スト教学科四年の新田恭平君による開会
 礼拝で始まった。聖書箇所はマタイ福音
 書五章九節の「平和を実現する人々は、
 幸いである。その人たちは神の子と呼ばれ
 る」であり、新田君は広島・長崎の被爆
 の記憶を風化させないために若者に何がで
 きるかを問い、私たちには平和を実現す
 るという職務が与えられていると語った。

以下に今回のテーマについての講師のお
 話を簡単に紹介したい。

今年で第三十五回を数える宗教部主催
 のサマー・カレッジが、雄大な蔵王連山の
 自然が眼前に広がる宮城蔵王ロイヤルホ
 テルを会場として、八月四日から六日まで
 の二泊三日のスケジュールで開催された。
 参加者は、学生が十三名（男性六名、女
 性七名）、教職員と講師が十一名であった。
 今年の主題は「働くということ」であ
 るが、このようなテーマでサマー・カレ
 ヲジが開催されたのは初めてと聞く。この主
 題は昨年参加した上級生から出された提
 案を基にして設定された。それは、今後
 社会に出るための準備として知っておくべ
 き社会人としてのモラルについてサマー・
 カレッジでじっくりと学びたいというもの
 であった。折しも昨年の金融危機以来、
 内定取り消しなど学生の就職が困難に
 なった状況があり、宗教部でもこうした状
 況を受けて就職活動や職業選択などの具
 体的な問題も含めて、広く働くというこ
 とについて考えてみようということになっ

一日目の講師は東北学院大学の就職課
 長の桔梗元子さんと、今回のテーマの「働
 くということ」でお話いただいた。桔梗
 さんは土樋の就職課で日頃から学生に接
 している経験と、最近の学生の就職状況
 に関する様々なデータを示しながら、大
 学生生活のなかでそれぞれの学年毎に心がけ
 るべき有益な助言をいろいろと話して下
 さった。まずは一、二年次には学生生活を
 大切にすることであり、勉強以外にもクラ
 ブ活動やリーダーの体験、ボランティア活
 動や地域活動での経験が、社会に出てか
 らの各自の財産になる。企業は仲間とし

てコミュニケーションをとることができ、
 企業に「ぶら下がる」のではなく、企業
 を「担ぐ」人を求めている。特に学生時
 代の様々な失敗の体験をどのように乗り
 越えたかが、今後の社会人としての力にな
 るということであった。



◆本学就職課 課長 桔梗元子◆

桔梗さんは、学生がよく陥りがちな点
 についても指摘されたが、それはアルバイ
 トに専念しすぎて授業を疎かにする学生が
 いることである。それはアルバイト体験そ
 れ自体は企業ではあまり評価されないのが
 実情であり、アルバイトの場合とは違い、
 企業で働く場合では自分に対する責任が
 出るからである。さらに企業を選ぶ場合
 にも会社名や待遇だけで選ぶ場合にはリ
 スクも多いので、事前にしっかりと自分の
 目で確かめることが大切である。桔梗さ
 んのお話により、学生の就職を支援する
 本学の就職課の頼もしいお働きについても

具体的に知る機会となった。

二日目の講師は、シニア産業カウンセ
 ラーおよびキャリア・コンサルタントとし
 て活躍する株式会社プロムナード社長の
 日野誠さんである。日野さんは東北学院
 榴ヶ岡高校、東北学院大学経済学部卒の
 同窓生で、東六番丁教会の会員である。
 日野さんはまず学生時代の経験について話
 された。学生時代に経営組織論のゼミで
 積極的に学ぶと共に、MSS（英会話研究会）
 でスピーチコンテストやディスカッション、
 デバイトに参加したことで、コミュニケー
 ション能力を磨くと共に、他校の学生とも
 広く知りあう機会に恵まれ、アイデンティ
 ティの確立につながったという。

1. 自分のヒストリー(学生)
2. 若者の労働意識の変化
3. 企業が今、求めている。
4. 企業現場の実態
5. 企業カウンセラーとして



◆株式会社プロムナード 社長 日野誠氏◆

その後キャリア・コンサルタントの立場
 から、現代の若者の労働意識の変化につい
 て、企業が求める人材について、これまで

の学力重視から、即戦力や問題解決能力重視へと変化していること、入社後の離職現象の背景についての考察、様々な困難を乗り越えて仕事の面白さが見えるに至るまでのプロセスについて話された。さらに企業カウンセラーの立場から、企業で働く人が相談する悩みの七割が人間関係であることが示され、そうした悩みに対する助言の事例が具体的に紹介されると共に、カウンセラーに求められる基本的態度についても指摘された。日野さんの講演では、企業カウンセラーとしての豊富な体験やデータが具体的に示され、学生の今後の進路選択やキャリア・アップの上で有益な指針となったと思う。



◆ 本学総務課 課長補佐 斎藤信二 ◆

三日目には本学総務課課長補佐の斎藤信二さんと私が学生との質疑の形で「就職Q&A」を担当した。斎藤さんは学生

時代に本学のグリークラブで活躍し、演奏旅行を通して人との絆の大切さを実感し、後輩の面倒を見たいとの希望を抱いて



◆ 本学 宗教主任 出村みや子 ◆

本学に就職したという経験を語られた。かつて就職課におられた経験から学生の就職に関して有益な指摘がなされた。まず就職のために様々な準備を重ねてこなければエントリーシートが書けないし、マニュアル的な書き方になりがちで、その人らしさが見えない。そしてそのためには学生時代に様々な経験を重ねて自分を磨いて欲しいという。さらに公務員を志望する場合、教員志望の場合や、希望する企業の情報を得る際の具体的なアドヴァイスがなされた。

私は「女性のライフステージを考える」というテーマでお話し、女性が社会で働き続ける上で、結婚・夫の転勤・育児・介

護などで離職する割合の高いM型と言われる日本の女性の就労状況について自分の足跡を振り返りながら検討した。そして人生の危機的状況をその都度乗り越える力となっているのが学生時代に培った信仰の支えと人との交わりの大切さであることを示した。働きながら結婚・育児を両立させたいと考える女子学生には具体的助言を、またそのようなパートナーと共に家庭を築くことを考える男子学生にはエールを送りたいと思う。



◆ ソフトボール大会 ◆

その他のプログラムとして、一日目の夜には参加者の自己紹介を兼ねたフレンドシップの時もたれ、二日目の午後は恒例のソフトボール大会が行われた。両チーム

の接戦が続き、大いに盛り上がった。夜にはマーチー先生とお嬢さんのジャッキーさんのヴァイオリンと、本学のオルガンリストの渡辺真理さんによる恒例のクラシック・コンサートがあり、素晴らしい演奏を一同で堪能した。最後に野村信先生が放蕩息子の譬えについてお話しされた閉会礼拝で今年のサマー・カレッジは終了した。「働くということ」を個人のライフステージを射程に入れた様々な視点から考えることで、各自が大学生活を見直し、学生生活の中で築かれる人間関係の重要性やコミュニケーション能力の大切さを学び、本学の就職支援態勢についても知る重要な機会となったことと思う。



◆ クラシック・コンサート ◆

各キャンパスのメッセージ

Izumi

泉キャンパス
大学宗教主任

永井 義之



「やはりなら」という私たちの日常の挨拶の言葉は、意味はもろろん別れのあいさつです。しかし、なぜ「さよなら」というのだろうかと考えると不思議です。「さよなら」は「左様なら」からきた言葉といわれます。つまり、「そうであるならば」という次の行動に移る際にそれまでの行動が終わったことを確認する際に発せられる言葉だということです。「やはり」「それじゃあね」「では」も同じ趣旨です。それまでのことに終わりをづけ、新しいことに移行するとき発する魔法の言葉は、言葉は霊力をもつという言霊(ことだま)の考えかもしれませぬ。立ったり座ったりするとき「どっこいしょ」と意味不明な言葉をふだん口にしていきます。どうも私たちは新旧の出来事にはケジメをきちんとつけないと次の新しい行動に移れない心性をもっているようです。後期の学期が始まっています。新しい思いと決意をもって残り半年を過ごしましょう。

Taqazyo

多賀城キャンパス
大学宗教主任

野村 信



秋も深まり、木々も冬に向かってぎゅつと身をひきしめるように備えています。ところで、多賀城キャンパスの礼拝堂横の脇の道には、銀杏(いちょう)が植えられていて、たくさんの黄色い葉を大きく広げていますが、その下に毎年「ギンナン」がはじけたように散らばっています。これを踏みつけると悪臭が漂いますから気をつけてほしいのですが、それにしても「ギンナン」は、銀杏が生育して二十五年もしないと実をつけないそうですから、とても「大事な実り」ということになります。その胚乳部分が滋養強壮にいいと言われています。いずれにしても、長い年月を経て、熟成するのですね。

皆さんも、このキャンパスで学び、礼拝堂で聖書に耳を傾けて、これから将来に備えますが、豊かな実りを実らすには、時間がかかると思いますが、しかし、自然界も人間も、見えない部分で十分養われた後、実りを実らすものです。実りの秋に、自分の人生をじっくりと考えてみたいものですね。

Touchitoi

土樋キャンパス
大学宗教主任

北 博



南太平洋のサモアとインドネシアのスマトラで、大地震と津波による深刻な被害が出たようです。その少し前には、フィリピンのマニラで台風による大洪水がありました。災害に対する警戒と備えは、常に怠らないようにしなければなりません。たとえ万全の備えをしていても、自然の脅威は更にその上を行くことがあります。私達はしばしば、自然の圧倒的な力の前に呆然と立ち尽くします。ところが、最近では人間の環境破壊によって将来より大きな災害が起きる可能性も指摘されています。人間は、大きな可能性を秘めています。大きな可能性も秘めています。私達には、常に謙虚さが必要なのではないのでしょうか。神の創造した美しい世界に感謝し、それを守りたいものです。

編集後記

今号は秋の特別伝道礼拝の特集号です。各キャンパスで行われた礼拝説教を再録しました。他のキャンパスの説教も是非お読みください。多くの学生諸君が礼拝堂に来て聞いてくれたことを感謝しています。夏の行事報告「サマー・カレッジ」で今年「働く」ことを取り上げました。就職問題はこんにち学生諸君のみならず社会問題でもあります。(NA)

二〇〇九年十月 東北学院大学宗教部
〒九八〇一八五二
仙台市青葉区土樋二丁目三番一号

◆クリスマス礼拝のご案内

★第二十一回泉キャンパスクリスマス

十二月四日(金) 十八時三〇分
泉キャンパス礼拝堂

第一部

礼拝

説教者：日本基督教団八戸小中野教会

佐藤浩之 牧師

第二部

クリスマスコンサート

クリスマス・メドレー演奏、聖歌隊合唱、みんなで歌おう、キャンドルサービス、他

★大学クリスマス

泉キャンパス：十二月九日(水)

十四時五〇分

土樋キャンパス：十二月九日(水)

十八時三〇分

★多賀城キャンパス：十二月二〇日(木)

十四時五〇分

説教者：学校法人 北陸学院

院長・理事長 楠本史郎 先生

オラトリオ「メサイア」合唱

★第六〇回公開東北学院クリスマス

十二月十二日(金) 十八時

土樋キャンパス礼拝堂

説教者：東奥義塾高等学校

宗教主任 阿部義也 先生

オラトリオ「メサイア」合唱